

平成29年度 姉妹校等留学プログラム

オーストラリアホームステイ研修旅行

(1) 学校・団体名/種類（派遣高校生的人数）

横浜清風高等学校／海外研修（2名）

(2) 渡航先

国／都市：オーストラリア／ウーロンゴン市

外国の高校：Cedar Christian College

(3) 期間

平成29年7月26日～平成29年8月10日（16日間）

(4) プログラムの趣旨・目的

- 異文化を肌で感じ取り、日本人としての自覚を育成する。
- ホームステイ体験により自立した生活の基盤を作り、人間理解を深める。
- 現地の人々との交流を図り、国際人としての意識を高める。
- 共通語としての英語の重要性を認識し、日常会話力を高める。

(5) 活動内容

- 学校間交流：日本文化発表
現地校授業参加
付属幼稚園・小学校訪問・交流会
日本語の授業のアシスタント
- 文化・自然学習：シンビオワイルドライフパークにて独特の生態系学習
- 大学見学：シドニー大学・ウーロンゴン大学（2校）
キャンパスツアーと入学基準や手続きについての説明会
日本人留学生との交流

(6) 実績・成果

- 派遣高校生 RSさん

「HOMESTAY IN AUSTRALIA」

私は二週間のホームステイ研修旅行に参加し、オーストラリア ウーロンゴン州に行きました。私が訪れた場所は、豊かな自然があり、穏やかな空気が流れていました。

<ホストファミリー>

私のホストファミリーは、父、母、姉、弟の四人家族でした。彼らは日本の文化に対して関心が高く、日本の文化やオーストラリアの文化についてたくさん話をしました。



彼らの家には大きな庭があった。日本では考えられないほどの広い庭だった。そこには、トランポリンやホストファザーが作ったタイヤのブランコなどがあり、私たちは毎日そこで遊んだ。タイヤのブランコは、スリル満点で家族全員のお気に入りだった。

<桜の木>

ホストファザーは日本の植物が大好きで、家で盆栽などを育てていた。また、私がホームステイしている期間に「枝垂桜」を植えてくれた。日本から遠く離れたオーストラリアに、日本の文化を好きでいてくれる人がいるということは、心から嬉しいことだと思った。さらに、日本人としてより多くの日本文化を伝えたいと思った。



<家族写真>

リビングに家族写真を飾る場所があった。そこにピクニックをしたときに撮った写真を飾ってくれた。その時にホストマザーが「あなた達は私たちの大切な家族」と伝えてくれた。私はこの言葉を聞いて涙が出るほど嬉しかった。2週間という短い期間しか一緒に過ごしていないのに、私たちを家族として迎えてくれる温かさに感動し、心から感謝した。



< S y m b i o W i l d P a r k >



Symbio Wildlife Park という動物園を見学した。この動物園には、タスマニアデビル、エキドナ、ディンゴなどオーストラリアに棲息している動物が数多くいる。私が一番印象に残っている動物は、ワラビーだ。なぜなら、日本では珍しいワラビーを見ることができたからだ。さらに、ワラビーが放し飼いされていて、実際に触れ合い餌を上げることができることにも驚いた。自然が豊かなオーストラリアだからこそ人が動物と触れ合う機会が多く、そのおかげで放し飼いをすることができるのだと思った。

< 日本文化紹介 >



Cedars に通う中学生と小学生を対象に、かるた、けん玉、紙相撲の3つを紹介した。私は紙相撲を紹介するグループだった。Cedars の生徒は私たちと一緒に真剣に、かつ笑顔で紙相撲をやってくれたので、私自身楽しんで日本文化を紹介することができた。また、紙相撲をやることによって、多くの人とコミュニケーションをとることができた。そして、ある小学生の女の子が私に折り紙をプレゼントしてくれた。彼女は「とても楽しかった。私は将来日本に行きたい。」と言ってくれた。この言葉を聞き私は心から嬉しかった。このように、日本文化を紹介することで、少しでも日本に興味をもってもらえればよいと思う。

< まとめ >

このホームステイに参加して、チームとは何か、また感謝の気持ちを伝える大切さを学ぶことができた。私が考えるチームとは、その人の長所・短所を理解し、短所をチームのみんなで支え、助け合い、長所をみんなで活かしてあげることだと考える。これはホームステイの活動を通して気付けたことだ。この気づきを今後の活動にも活かしていく。

また、私を家族のように温かく迎えてくれたホストファミリーにも感謝をしたい。彼らのおかげで、オーストラリアで素晴らしい経験をする事ができた。

最後に、このような貴重な経験をさせてくださった横浜清風高校の皆様、そして企業の皆様、心から感謝します。

○派遣高校生 MFさん

私は2週間オーストラリアのホームステイで様々な体験を通して新しい発見をすることや、成長することができました。ホストファミリーや Cedars の人達が優しく接してくれて、とても充実した時間を過ごすことができました。

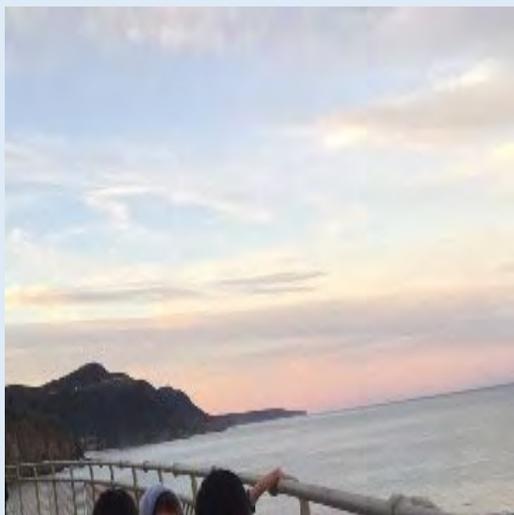
私のホームステイ先のファミリーは、4人家族でした。全員気をつかってくれて、お父さんはオーストラリア料理を食べさせてくれたり、オーストラリアについていろいろなことを教えてくれました。お母さんはたくさんの名所に連れて行ってくれたり、私に英語のレッスンや新しいフレーズを教えてくれました。たくさんのことを教えてもらいましたが、一番お気に入りのフレーズは、「Impossible is not in my dictionary」です。

弟たちは毎日たくさん話をしたり遊んでくれました。特にごっこ遊びで動物になりきるゲームが印象に残っています。わからない英語の動物がたくさん出てきて調べながら遊んだので、楽しみながら多くの新しい英語が覚えられました



ホストファミリーはモルモットを飼っていて、最初に「guinea pig」を飼っていると聞いて、何の動物かわからず、苦戦したのを今でも覚えています。

ホストファミリーと一緒にほぼ毎日餌をあげたり、一緒に遊んだりしました。人参を食べさせたり、モルモットのための迷路を作ってあげたりと、とても楽しかったです。左の写真の二人は、とてもモルモットのことを可愛がっていて、すごく熱く語ってくれていました。



Illawarra Fly や Sea cliff bridge など様々なところへ行きました。

Illawarra Fly は子供たちは高いところがあまり好きではないにも関わらず、楽しい所だからと連れて行ってくれたことが、気を使わせてしまったという申し訳なさはあるものの本当にうれしかったです。Sea cliff bridge はその橋から見える綺麗な景色を見て、ホストファミリーと話しながらゆっくりと端から端まで歩きました。空は夕焼けで赤くなっていて、青い海とのコントラストがとても綺麗でした。

右の写真はホストファミリーにけん玉を紹介したときのものです。日本の玩具だと伝えるととても喜んでくれて、できるようになるまで、何回も挑戦してくれ、お別れの直前にはできるようになった技を披露してくれました。



私は Cedars というオーストラリアの学校でも日本の文化を紹介しました。右の写真は富士山や桜など、日本と関わりのあるものを札にした絵のかるたを作って、実際に遊んでもらいました。かるたのルールを英語で説明するのはとても難しく、読み札の意味があまり伝わらなかったり、読み札とかを無視して関係なく札を取ってしまうなど、説明の所が一番大変でした。けれど言葉を変えたり、ジェスチャーを加えたりすることで乗り切ることができました。それだけでなく、このかるたはとても好評で、楽しく遊んでくれたので、大きな達成感と嬉しさを感じました。



フェアウェルパーティーがあり、私たちは何人かで分かれて、ペアの人と学校内を過ごしました。私のペアは、2人とも親切に学校内を教えてくれました。休み時間には、一緒にランチをしたり、UNOをしたりしました。とてもなかよくしてくれて、学校生活は充実したものになりました。

私はペアの人から、お別れの時に帽子をもらいました。最後に一緒に写真を撮れてうれしかったです。2人と初めて会った時は、何を話せばいいか迷い、なかなか会話ができませんでしたが、相手から話題を提供してくれたり、UNOに誘ってくれるなど、二人のやさしさに何度も助けられました。自分から積極的に話していけるようになったのは、二人との交流がすごく関わっていると思います。あの時の接し方には、とても感謝しています。

ホストファミリーやCedarsの生徒のみんなとの交流は、私を成長させてくれました。一番感じたのは、英語で会話を続けていくことの大変さです。同じ表現を使ってしまったり、知っている単語が少ないため、自分の言いたいことが伝えられず、自分の勉強不足を痛感しました。しかし、それと同時にそういう場面で諦めず、とにかく伝えようとする気持ちが大切なんだとも感じました。つたない英語でも、あいては聞こうとしてくれていることや、ジェスチャーを加えるだけでも伝わり方に違いが生まれるのだと気づけたからです。そのため、あまり積極的にいけなかった自分を変えることができたと思います。ホームステイ研修に参加出来て本当に感謝しています。この経験を生かしていきたいと思っています。

支えてくださった企業の皆様、学校の皆様、ありがとうございました。